



第1期 中原区区民会議 報告書(概要版)

委員

- 生富 公明
- 尾澤 良二
- 小須田和昭
- 酒井不二雄
- 佐野 愛子
- 杉野 茂彦
- 鈴木眞智子
- 高島 厚子
- 竹井 斎
- 内藤 幸彦
- 仁上喜久夫
- 芳賀 誠
- 原 良三
- 東田 乗治
- 藤枝 重之
- 松本 玲子
- 水品 美香
- 三竹 和子
- 宮本 良彦
- 村上 好正
- モハマドアフル
- 横川 郁子
- 吉房 正三

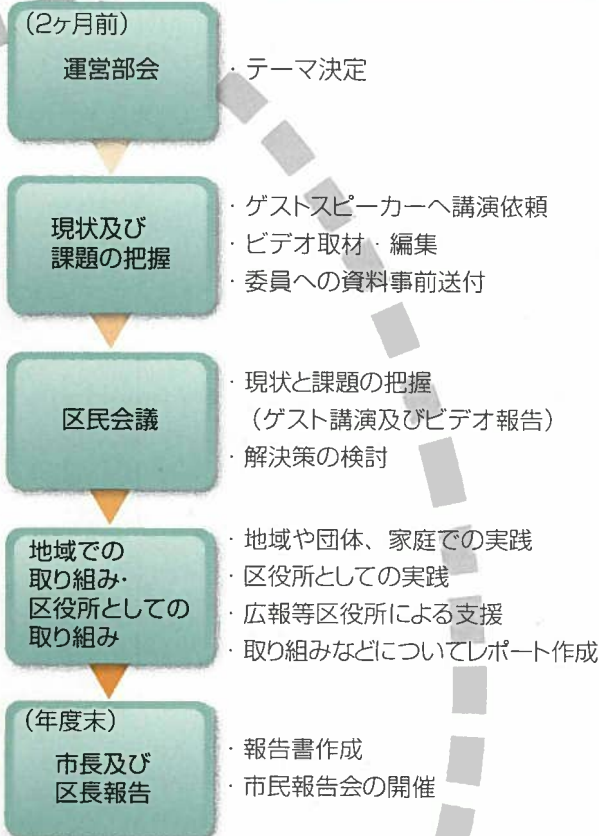
専門部会

- 運営部会
- 協働推進事業検討部会



とどろき老人いこいの家を会場に始まった「子育てサロン」とどろき」。ゲストやスタッフに地域の高齢者を迎え、多世代の交流が生まれています。

会議の流れ

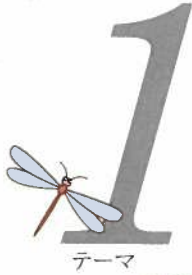


- ・委員同士の交流
- ・新たな市民活動の展開
- ・区役所全職員を対象にした区民会議研修

平成18年度第1回「地域で支える高齢社会」

－高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか－

- ゲスト 丸子地区すこやか活動推進委員 渡辺政勝
大戸地区すこやか活動推進委員 三川幸子
- ビデオ報告 丸子地区すこやか活動、大戸地区すこやか活動



テーマ



「つきやまサロン」

は、西丸子小学校地区で閉園になった幼稚園を利用して開催されています。太極拳やウォーキング教室のほか、同じ敷地内で活動している子育てサークルと連携しながら世代間交流も行っています。この日は給手紙を作りました

会議を一つのきっかけにして、中原区の「すこやか活動」は平成19年度から「つきやまサロン」と「玉川地区」の2活動が新たに認定され、計4箇所になりました。丸子地区では、新設の老人いこいの家を利用して新たにすこやか活動をはじめ、地区全体で会を広げています。

また、子育てサロンにお年寄りを招いたり、町内会館でおしゃべり会を開催したりと、地域で高齢者を支える取り組みが広がっています。



そのほかの取り組み

- 「多摩川等々力士の桜を愛する会」による桜の記念植樹に地域の高齢者に参加してもらえよう、「つきやまサロン」を通じて呼び掛けを行い参加につながった。
- 丸子地区では、民生委員・児童委員が中心となり「災害時一人も見逃さない運動」として災害弱者名簿の作成を始めて2年が経過した。更新作業も進み、名簿登録者も増えてきた。
- 新丸子こども文化センター運営協議会では、卓球の講師を招いて、高齢者と地域の子どもたちを対象に「高齢者とのふれあい卓球大会」を現在企画している。



玉川地区では、上平間第二町会を母体に地区内の高齢者世帯を訪問して見回る「独居老人等見守りネットワーク」などの活動を行っています



ボランティアを先生にみんなで体操。丸子地区では新設の丸子多摩川老人いこいの家でもすこやか活動を始めました



大戸地区では、体操のほか「ごはん作り隊」による昼食、「造形隊」によるゲームやタペストリー作りなども好評です

地域からの課題

- 渡辺 一人暮らしのお年寄りは行き場がない。地域で住んでいるお年寄りが健康で、本当に毎日楽しく過ごせるような活動にしていきたい。こういった活動をしていると、成人も子どもも地域のつながりができてくる。これが町づくりの原点ではないか。
- 三川 地域は休息の場であったり、活動の場、会話の場、子どもやお年寄りの成長の場であったりする。これからの社会はこういった点で役に立つのが高齢者で、自分の生きがいへつなげて、役に立っているというのが高齢者にとって若々しく表れる。



宮内・中原安全パトロール隊による中原小学校児童の朝の見守り活動。宮内小学校、宮内中学校とも連携して防犯の取り組みを行っています

西丸子小学校(上)や新城小学校(下)でも学校、PTA、民生児童委員、地域ボランティアが連携して朝のあいさつ運動が始まりました。西丸子小学校では、下校時に地域の老人会が児童の見守りで町かどに立っています



平成18年度第2回「地域の安全・安心をどう守るか」 —子どもの見守り活動を中心に—

■ゲスト 川崎市立中原小学校長 白井達夫

■ビデオ報告 川崎市立西丸子小学校、川崎市立新城小学校、川崎市立中原小学校における地域ぐるみの見守り活動



テーマ



木月4丁目で共和会で平成19年9月から始まった青色回転灯装着車による防犯パトロール。少人数でのパトロールが可能になり、週1回だった活動を3回に増やしました

会議後、木月4丁目共和会では徒歩によるパトロールに加え、青色回転灯装着車によるパトロールも開始しました。青色回転灯は、中原区協働推進事業を活用して必要な団体に貸し出すこととしています。

また、小杉町2丁目町内会では平成19年10月から20年1月までの4カ月間、地域での犯罪に対する意識を高め、街ぐるみで防犯対策を進めようと町内会が設置管理している防犯灯82灯を青色防犯灯に替えました。町内でアンケートを取り、効果の検証を踏まえて、現在も町内会メインストリートに37基の防犯灯を青色にしています。



青色防犯灯をきっかけに多くの方が町内会に関心を持つようになってくれたことがうれしい、と吉房委員

そのほかの取り組み

- 木月地区の見守り活動は、民生委員児童委員協議会だけでなく、老人クラブも参加するようになった。
- 中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会では、研修会を開催し(平成19年2月20日開催)、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民へ防犯・防火意識の啓発に努めた。また、「子ども安全の日」を制定し、地域ぐるみで子どもたちを犯罪や交通事故から守る取り組みを開始した。
- 「小杉駅周辺エリアマネジメント」では、エリア内で民の入居にあわせて「わんわんパトロール」をマンションペット委員会委員とともに計画している。

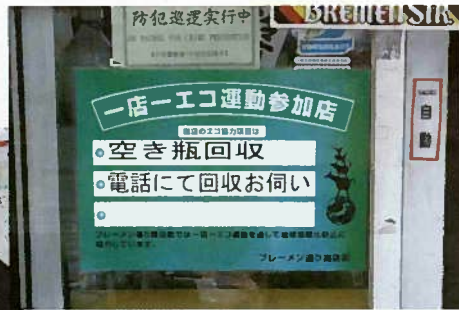
地域からの課題

白井 地域が復活してほしい。地域が支えあう共同体になれば、それが子どもの安全には一番いい。地域がばらばらになってきたその隙間に、犯罪者が入ってきている感じがしている。
隙間を埋めるのは、コミュニケーション、地域の交流。パトロール隊のような人たちの働きで地域がもっと密になればいい、と思っている。
子どもを守ることと同時に、子どもを育てることの両立を目指したい。

プレーメン通り商店街の「一店一エコ運動」。各店で取り組むエコを店頭に掲示、地域の小学生が調査隊として年1回、チェックに訪れます



オズ通り商店街における慶応義塾大学ボランティアサークルによる小学生を対象にした「寺子屋塾」



飲食店では割り箸をやめて「塗り箸」に



エコバッグを持参するとポイントが2倍になるサービスも

会議をきっかけにして、区では川崎市新総合計画川崎再生フロンティアプラン第2期実行計画において、「商店街と連携した地域のまちづくり推進事業」を平成20年度から3年間、重点的に進めていきます。商店街を地域コミュニティの場として活用できるよう、新たな取り組みの実施に向けて商店街や町内会、子育て世代を交えての検討会が始まりました。

また、平成19年の市商店街連絡協議会において、チェーン店の商店会加入を要望しました。

オズ通り商店街では、子育て世代を支援する新たな取り組みも始まっています。

そのほかの取り組み

- 中原区商店街連合会では、各地区の商店街の活性化や振興策の参考例として定期役員会において、区民会議のビデオ、議事録などを報告した。
- 平成19年、新城駅周辺の放置自転車の取り締まりを新城商店街と地元町内会とで協力して実施した。



オズ通り商店街で平成19年秋から始まった「子育て支援検討会」。平成20年3月から商店主による生活実用講座が始まりました。第1回は「魚のおろし方教室」です



平成18年度第3回「地域の中の商店街」

—地域と商店街の新たな連携を考える—

- ゲスト モトスミプレーメン通り商店街振興組合理事長 伊藤博
モトスミオズ通り商店街振興組合副理事長 中野勝久
- ビデオ報告 地域と連携したプレーメン通り商店街におけるエコ活動、オズ通り商店街における空き店舗を活用したコミュニティ活動

地域からの課題

伊藤 商店街でペットボトルや空き缶の回収を行えば、資源の持ち寄りに対してポイントを差し上げることで地域通貨につながり、ひいては商店街の活性化につながる。

中野 商店街とボランティアをどう結びつけるか、学生たちと話を進め、子どもを中心にした異世代間交流に取り組むこととなった。

尾澤委員 これからは高齢者の抛り処とか、子どもの見守りとか、商いだけ考えるのではなく、そういう役割を果たしていくのが商店街の責任ではないか。



富士通フロンティアズフラッグ
フットボールクラブ(左)、
「老後をよくする会」(左中)、
井田病院園芸ボランティア(右中)、
「とどろき水辺の楽校」(右)

4

テーマ



平成19年度第1回「地域に参加し、地域に学ぶ」 —みんなが地域活動に参加しやすくなるヒントを考える—

- ゲスト 井田病院園芸ボランティア黒川登志恵、「とどろき水辺の楽校」写真ボランティア本告龍造、「老後を良くする会」配食ボランティア山本幸彦、「富士通フラッグコート」コーチ輪島章司
- ビデオ報告 井田病院、水辺の楽校、老後を良くする会、富士通フラッグチームでの取り組み

会議をきっかけにして、区では平成20年3月10日、ホームページ「区民交流サイト・webなかはらっば」を開設しました。このサイトでは、あらかじめ利用登録した市民活動団体、サークルなどが活動の様子やイベント情報を自由に発信できます。

併せて地域の市民活動の拠点として利用されていた区役所5階の「区民活動支援コーナー」も装いを新たに「区民交流センター・なかはらっば」としてオープンしました。

また、市政だより中原区版では、平成20年1月1日号から、町内会・自治会を紹介する連載記事を開始しました。

そのほかの取り組み

- 「なかはら子ども未来フェスタ」や「なかはら福祉健康まつり」で子育てサロンを紹介した。
- 中原中学校区地域教育会議では、七福神めぐり、桜散策、スマイルを見る会など地域と交流しながら学習している。
- 新丸子子ども文化センター運営協議会と中原中学校区地域教育会議とで協力して高校生との子ども文化センターペンキ塗り、上小田中7丁目の畑で「親子・高齢者とのさつまいも掘り」などの会を開催した。



リニューアルオープンした区民交流センター



平成20年3月10日にオープンした
区民交流サイト「webなかはらっば」

地域からの課題

- 山本 地道にやっている活動がなかなか普通の人に分からない現状がある。いろいろな形をつくって調べられるようになると参加する人が多くなるのではないかな。
- 本告 普段は会社での付き合いが多いが、自治会に参加して近所の付き合いが増えた。これからは、だんだん会社から地域に活動が移っていく、そういうことではないか。仕事以外の人生、それが発見できたことがすばらしい。
- 黒川 やってみようかな、と思うことが一番。まず、声を掛けてみることはないか。



新城商店街でのリユースビンモデル事業

委員による取り組み

- 町内会ぐるみでのペットボトルキャップ収集
(再資源化し、売却金でワクチンに替える運動に協力)
- 商店街でリユースビンのモデル事業実施
- 子育てサロンで着回し
- マイバッグ・マイ箸・マイボトル など

各委員が取り組むこと、区役所として取り組むことを議論し、「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」として地域や家庭で取り組んでいくこととなりました。

まずは足元からと、会議では、ペットボトルのお茶を廃止、委員はマイボトルを持参しています。このプロジェクトは、第2期へと継続して、実践活動をさらに区内に広めていきます。

平成19年度第2・3回「地域で取り組む環境対策」

－わたしたちにできる“環境”を考える－

■ ゲスト 中原区在住 中山育美

川崎市環境局地球温暖化対策担当 広瀬健二

■ ビデオ報告 市立上丸子小学校及び井田小学校における環境学習、
中原区子ども会議、「とどろき水辺の楽校」、区役所緑のカーテン



ペットボトルキャップの回収は箱を区役所にも置いたところ、平成19年12月から20年3月まで約500kg(500人分のポリオワクチン)が集まりました

区役所による取り組み

- 「一課一エコ運動」を開始
- 平成20年度から地域でゴーヤーによる緑のカーテンを普及、ガイドブックとして絵本を作成
- 平成20年度から地域で「打ち水大作戦」を展開
- 区役所1階でエコギャラリーを開催 など



北極の氷が融けて中原区に流れ着いた、白くまのロジーちゃん
とゴーヤーくん、地球のエコちゃん。これからプロジェクトのイメージキャラクターとして活躍します

「一課一エコ運動」ポスター



区役所1階のエコギャラリー。小学校の環境学習の成果を展示しました

地域からの課題

広瀬 平成19年の平均気温によると、川崎市の中で中原区が一番平均気温が高い。
地球温暖化対策には、小まめに行動することが大切。

中山 小さなことでもできることから継続していくことが大事である。企業、行政、ほかの市民グループや隣の人と連携していけることが課題ではないか。